行政視察報告書

令和元年　8月　30日

長浜市議会議長　松本　長治　様

長浜市議会議員　　中川　リョウ　[redacted]

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1．視察等名　　会派 改革こほく　　行政視察
2．視察期間　　令和元年　7月　２６日（金）～　　２８日（日）
3．視察場所及び目的
①鹿児島県西之表市市　・地域活性化交流拠点施設こうのみね館　廃校等の利活用について
②鹿児島県鹿屋市　・やねだん 地域再生&創生 行政に頼らない感動地域づくり」について
③宮崎県小林市　　・出の水淡水魚水族館について

4．調査内容感想等

・視察の目的

鹿児島県西之表市

「地域活性化交流拠点施設こうのみね館　廃校等の利活用について」

市民の生きがいづくり及び健康づくりの推進が目的

事業内容→中割地区全域の活性化

1、地域住民の集落生活圏の将来像の合意形成

2、持続的な取り組み体制の確立（地域運営組織の形成）

3、生活サービスの維持・確保

4、地域収入の確保のためのコミュニティビジネスの実施

長浜市議会

地区の概要

近年には過疎化、高齢化が進み現在５５戸９０人が住む地域

こうのみね館の母体は自治会で運営されている。行政の関わりと言えば建物の修繕や指定管理料の支払いのみであった。驚いたことは住民主体でコンパクトシティを目指されていることであった。過疎高齢化が進むと高齢者の独居世帯が散在し、コミニティー機能の維持が極めて難しくなる。中割地区はそうしたことを踏まえ、地域の見守り強化の為に世帯の集約化（家を捨て住民同士が近いところに居を構える）を実現されていた。長浜市においても北から順番に集落が無くなっていく傾向にあり、市としてどこかで防衛線を張ってできるだけコンパクトなコミニュティ形成を目指さなければならない。その合意形成に至っては住民の様々な感情、思いのハードルを越えなければならないが中割地区のようにコミュニティの集約化は必要であると考える。

教育施設においても学校の統合が進む長浜市においても地域の特性を活かした利活用を進めなければならない。比較的災害も少なく、寒冷地に最適なものでいえばデータセンター誘致（バックアップ機能）があるが今後更にニーズが増えると考える。地域の拠り所という活用もあるができれば民間企業への貸出や譲渡を追求していきたい。

最後にこうのみね館の新しい取り組みに触れておきたい。民間企業との連携に重点を置き、

１、住宅整備による独居老人の集約による高齢者の見守り体制構築

２、集約化による空き家を改修し、外部移住者へ貸出

３、整備施設に民間テナント誘致

４、仮想空間「バーチャルシティなかわり」を構築し、仮想空間住民を獲得。通貨発行、物販、オークションの実施、最先端技術を活用した高齢者の見守りの実装など

実現性の有無はまだわからないが積極的な取り組みに感激をした。

鹿児島県鹿屋市

やねだん「地域再生&創生　行政に頼らない感動地域づくり」

政府の進めた「地方創生」のモデルとなった「やねだん」の豊重館長に直接お会いできて光栄だった。平成３０年度ふるさとづくり大賞内閣総理大臣賞を受賞され、長きにわたり地元柳谷集落の再生と人財づくりに取り組まれた豊重館長からお話を伺った。

１土台づくり

・企業会計原則

・リーダー不可欠、感動と感謝で人の心を揺さぶる

・リーダーは親しみやすくて、近づきがたい人（勇気と度胸）

・地域活動に補欠はいない

この４つを地域づくりの土台に置かれていた。個人主義の住民が多い中、地域の活動にどうやったら顔をだしてくれるか、どうやったら出してくれるのか、根本的なことではあるが３年のスパンで企画力、演出力、財務力があれば可能である

２、住民自治

自主財源確保

還元

この三つの柱は民間企業の本質と同じ印象を受けた。行政に頼っていてはいつまでたっても住民自治は進まない。自分たちの手で運動公園建設やサツマイモの栽培を経ての焼酎製造、肥料の製造販売を行い、地域でお金を稼ぐことに視点を置く。儲かったお金で新たな投資や住民へのボーナスという形で還元するというサイクルがまた住民のやる気を起こさせる。とても良い循環ができていた。また創世塾の開催や若い世代の教育、育成にも力を注ぐ。どれも必要なことであるが同時に並行して事業を継続して行うことの重要性を感じた。当たり前の事を継続して行うことこそが成功の秘訣である。

宮崎県小林市　「出の水淡水魚水族館」

鱒の養殖成功を起源として設立された淡水魚水族館を訪れた。規模は小さいながらも子どもたちを含め多くの来場者がおられた。淡水魚水族館として身近な魚を面積の少ない場所で効率よく展示されており、年間のランニングコストを抑える努力が見られた。この程度の規模ならえきまちテラスのエントランスでも設置可能である。